

精神部会 H30 年度活動報告

【目的】精神障がいの方が、住み慣れた地域を拠点とし、ご本人の意向に即して充実した生活を送ることができるよう、入院中から医療・保健・福祉等で連携して支援が行える体制を構築していく。更に啓発活動等を行い、安心して暮らし続けていける地域づくりを目指す。

【主な活動】

精神部会

①事例検討

退院支援時に本人の気持ちの揺らぎがありスムーズに進まない事例、グループホームの利用で力が付き、グループホームを卒業してアパートでの生活を始めた事例を共有した。支援のポイントや地域支援者の連携の大切さ等について共有でき、学びを深められた。

②地域への啓発・研修

安心して地域での暮らしを継続していけるよう、今年度は支援者を対象とした研修会を検討した。その結果、地域生活支援拠点等事業検討会で主催する「精神障がい者の支援力を高めよう！～現場で使える認知行動療法～」と共催とした。

③精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議

地域づくりに繋がるよう、グループワークを中心に、当事者・家族への支援、必要な地域資源、連携協力体制等について意見を出しあい、部会として検討や取り組みが必要な事の整理を行った。また、住まいの確保支援の課題について検討するため、県社協事業の「長野県あんしん創造ねっと」の学習会を行った。

④資源マップの見直し

昨年度完成した地域の資源マップについて、今年 10 月末の情報で改訂。今年度中に関係機関へ配布する。

長期入院者等との面談

●県保健師、市町村保健師、基幹相談員で、精神科病棟に入院されている方との面談を実施。今年度は 10 名の方と面談し、8 名の方について情報共有を行った。また伺ったお話から地域課題が抽出できるよう、面談で伺う内容も部会内で検討した上で実施した。当事者の声を大切に、安心して暮らし続けられる地域づくりに繋がるよう来年度も継続したい。

仲間としゃべろう会虹

●当事者の方を中心に気軽に集まっておしゃべりができる場として、月 1 回、中野会場・飯山会場を隔月開催で、継続。

【成果・来年度に向けて】

- ・今年度、地域の課題を出しあい、「部会や地域全体で検討・取組が必要なこと」としてたくさんの意見が出された。来年度この意見を部会活動に反映し、安心して暮らし続けられる地域づくり、地域包括ケアシステムの構築に繋げていく。
- ・本人も家族も高齢化している。親亡き後のサポート体制を考えるためにも、他部会とも連携して課題検討を行い、地域の体制整備に繋がりたい。